

四国あるき遍路の旅

発行日



目次：

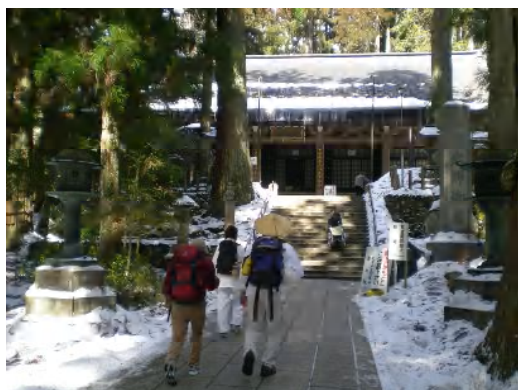
一番霊山寺・二番極楽寺	2～3
三番金泉寺・四番大日寺	4～5
五番地藏寺・六番安楽寺・七番十楽寺	6～7
八番熊谷寺・九番法輪寺	8～9
十番切幡寺	10～11
十一番藤井寺	12

いよいよ2巡目がスタート

1順目の「四国あるき遍路の旅」が満願を迎えてから約3ヶ月。2巡目のあるき遍路が始まりました。

1順目は足掛け七年の歳月を要しましたが、さて2巡目は何年かかるやら。道中もまた1400kmとも言われる長丁場、どうせ歩きですから、慌てる必要はありません。折角、あわただしい日常を離れる時間を持てるのですから、じっくりと歩いて参りましょう。

きっと、貴重な体験の数々を通しての新たな気づきや学びが、これからの生活を変えてくれることでしょう。



雪の高野山

四国遍路は「同行二人」といわれています。常にお大師さん、弘法大師がいっしょだと。

そこで2巡目では、最初にお大師さんにお参りをしてから出かけることにしました。つまり、1順目の十番から逆打ちのお礼参りの、まったく逆コースです。

難波から南海電車で高野山。高野山駅から境内に入る途中の日陰には、たくさんの雪が残っていました。

金剛峰寺をお参りして、奥の院参道に入ると、誰も除雪していないと見えて、正に雪道でした。わらじでの雪道は修行時代以来、かれこれ25年ぶりでした。

遍路めし

2巡目と高をくくっていたのが間違いで、高野山上には昼飯を調達するつものコンビニが見当たらないではありませんか。もちろん、20名もの団体にすぐに食事を出せるような店も見当たりません。これは昼飯にありつけないかと思ったら、経験者の塩月さんと雨海さんが昼の弁当を調達に走ってくれました。20個もの弁当を持って、後から追いついてくれる体力も見せてくれました。感謝、感謝。

お礼参りの時には、食堂まで手配して用意周到だったのに、なんと気が緩んでいることかと、反省

しきりでした。

これからのあるき遍路では、さぬきのうどん屋さん以外、食堂で食べることは少ないと思います。宿で弁当を作ってもらうか、朝コンビニの弁当を仕入れていくか。食べる場所も札所、東屋などなど、雨が降っていなければ道端なんてこともあります。

でも、昼飯にありつければ、これがうまいんだな。冷たいおにぎりでも、多少リュックの中で変形したおにぎりでも・・・。

山下清ではありませんが、「へ、へんろは、お、お、おにぎりが、好きなんだな。」

前途を暗示か？
ケーブルカーに乗り遅れる！

非情のベル

これまた2巡目の気の緩み。

奥の院から高野山の駅に戻るバスは、当然何本もあるはずと、変に勘違いをしていたようです。そのことにバス停についてから気づくという大失態。急遽、タクシー分乗で高野山駅に向かうことにしましたが、最後の一台がなかなか来ない。

ようやく来たタクシーの運転手さんが、大丈夫間に合いますよといってくれてほっとしました。路

線バスは専用道路を使っているのので、駅まで近いのですが、タクシーは大回りです。ようやく駅について、先発隊と合流して、さあ行きましようという、今出たばかりとのこと。私もタクシーの運転手さんも、土日のダイヤであることを忘れていたのでした。

仕方なく次の便で山を下りることにして、駅舎で昼食の弁当を広げることになりました。



高野山駅で途方にくれる。

大阪・神戸・淡路、そして徳島へ

無事、次のケーブルカーに乗って、なんばへ。なんばからは高速バスで、淡路を経由して鳴門西のバス停まで行きました。これも、1順目のお礼参りの逆コースです。

予定より1時間ほどの遅れでしたが、無事へんろ宿に到着しました。

1順目の最初の頃、航空券とホテルがセットになったビジネスパックで出かけていましたが、人数が多くなり、ビジネスパックを

利用できなくなりました。

格安パックは、値段は安いのですが、指定のホテルに泊らなければならない、その分の移動が時間と運賃のロスを生みます。

2巡目は、団体の航空券を利用しているの、宿は自由に選べるという利点があります。ですから、2巡目はへんろ宿や宿坊を存分に利用することができます。今日の宿も、一番霊山寺の門前にとることができ、明日は出発してすぐにお参りです。



一番札所霊山寺門前の「かどや権荘」で、いざへんろ本番の朝。

歩きはじめから雨。
自然は、情け容赦なし。



一番札所霊山寺の山門前にて



再び降り出した雨に、あわてて合羽を着る。



二番札所極楽寺。赤い山門が特徴的です。



雨の旅立ち

昨日の高野山は残雪のお出迎えでしたが、二日目の朝は雨で目を覚ますことになりました。

経験者にはなんということもない雨ですが、初めての人には不安の幕開けだったかもしれません。

宿を出るときには雨も上がりましたが、霊山寺をお参りし、へんろの身支度を整えて歩き始めると、また雨が降り出し、風も強くなってきました。

でも、大自然の前に、私たちは

なんと非力なのかは、これからいやという程知らされます。まずは、小手調べといったところでしょうか。

観音経の中に

うんらいく一せいでん

雲雷鼓撃電

ねんびーかんのんりき

念彼観音力

ごうぼくじゅーだいうん

降雹澍大雲

おうじーとくしょうさん

応時得消散

とあるように、あるき遍路をするうちに、雨も慈雨と思えるところが育っていきますから、ご安心下さい。

極楽にたどり着く

一番札所を後にして、雨だ、合羽だなどと言っているうちに、二番札所極楽寺の赤い山門の前に着いてしまいました。まだまだ歩き始めもいいところなのに、もう「極楽」寺。「四国遍路に行ってみたいな」という声は良く耳にしますが、まずは歩き始めなければ何事も始まりません。そんな意味では、歩き始めた皆さんはすでに極楽に足を踏み入れたのかもしれませんが。

しかし、極楽寺の本堂と大師堂

は、急な石段を登った上にあります。ようやく着いたと思った人には、この石段が恨めしく思えたことでしょう。

石段を登り、息を整えてから般若心経一巻をお読みしてお参りをしました。お経もまだまだ慣れていませんが、そのうち大きな声で、みんなとそろって読めるようになります。お経は耳で読めといわれるように、まずは、木魚の音をよく聞きながら、読んでみましょう。

梅見ごろ

極楽寺から三番札所金泉寺に行く途中のコンビニで、昼食のおにぎりを買い込みました。1順目のときにはなかったコンビニができていました。へんろ道が通る集落はどこも閑散として、看板を下ろした店が多いのですが、郊外の大きな道路に面したところはコンビニができたり、道の駅のようなができたりと、活況を見ることができます。これで今日の昼飯も確

保できました。

再びへんろ道に戻ると、程なく田んぼのあぜ道を歩くへんろ道となります。金泉寺境内に入るへんろ道は、山門をくぐらずに裏から本堂の前に出ます。境内に入ると、満開の梅林が迎えてくれました。

この大師堂は豪壮な建物ですが、残念ながら改修工事の真っ最中でした。



初参加の関口さんご夫妻です。

竜宮の門？

金泉寺は裏から入ったので山門の印象は薄いのですが、ここの山門も二番札所極楽寺同様、朱塗りの山門です。(右の写真) 竜宮城があるとすれば、その門も色からするとこんな感じだったかもしれないと思わせます。

両方とも二層の仁王門で、その昔、競うように建てたのかもしれませんが。それを復元修理して、往時の色に塗りなおしたものと思わ

れます。

妙心寺の三門も、かつては風雨にさらされた色をしていましたが、修理を終えるとこんな色になっていました。

この色はベンガラといわれ、昔から塗料として使われていた黄赤色の顔料です。インドのベンガルに産した酸化鉄だそうで、こんな塗料も仏教とともにインドから伝わってきたのかもしれない。



遍路古道



四番札所大日寺への遍路古道に分け入る。

金泉寺から四番札所大日寺へのへんろ道には、古道が残っています。あるき遍路の風情が増します。といっても、まだまだ陰しさは皆無とっていいでしょう。

でも、気をつけていないと、高速道路工事のために消えてなくなったり、付け替えられたへんろ道もあり、見過ごしてしまいます。

自動車やその排気ガスを気にせず、足に負担のかからない土の道を道しるべにしたがって行けば、いにしへの遍路たちもこの道を歩いただろうと、時空を越えた思いが湧いてきます。

裏口からごめんなさい。
三番札所金泉寺。

三番金泉寺・四番大日寺



四番札所大日寺に向かうへんろ道にて

「遍路」のジレンマ

へんろ道から見えるもの

遍路古道を抜けると、田んぼや梅園の間を歩くへんろ道です。農道といっても、きれいに舗装されています。高速道路の高い高い橋脚をくぐって、大日寺まで立派な道になっています。

昔の大日寺までの道は、車一台がやっと通れるぐらいの幅しかなく、昼なお暗いところもありました。道端に牛舎が建っていて、牛の鼻先を歩いた記憶があります。

また、前回歩いたときには、いのししを飼っている農家がありましたが、もう見当たりませんでした。

あるき遍路にとっては、古いままの道がいいのですが、地元にとっては大切な観光資源である四国遍路のお客さんを受け入れるために道路も整備しなければならないという、遍路のジレンマがそこにあるのでした。



四番札所大日寺山門

おとなの遠足

四番札所大日寺に着くころには、朝の雨がうそのように晴れ渡り、素晴らしい青空です。

大日寺は、本堂と大師堂が回廊でつながり、その回廊が境内をすっぽりと囲っています。団体バス遍路にはまだ早い時期ですから、境内には私たち以外数人の遍路しかいません。静けさの中に、私たちの般若心経が響き渡りました。

お参りを終えて、コンビニで仕

入れたお昼ごはんにすることにしました。境内のベンチ、駐車場の原っぱの上、思い思いの場所でお弁当を広げ、まるで子どもの頃の遠足気分です。そういえば、かつて雨海さんの娘さんが、お父さんの四国遍路のことを、「おとなの遠足」と言った名言を思い出しました。おやつは、駐車場で農家のおじさんが売っていた地元のみかんにしました。歩いた体にみかんの果汁がしみわたりました。





五番札所地藏寺の奥の院五百羅漢堂の羅漢さんたち。知り合いにそっくりな羅漢さんもいるはずですよ。

五百羅漢堂

大日寺から五番札所地藏寺にゆるやかに下っていくと、地藏寺奥の院五百羅漢堂に着きます。団体バスの、時間と競争をしているような遍路では立ち寄ることもない五番札所の奥の院。ここは、あるき遍路の自由さから、お参りすることにしました。

等身大の五百羅漢像は、日本一の規模を誇っているそうです。その中には、お参りする人の知り合

いにそっくりな羅漢さんがいると言われていています。そう聞いてお参りすると、よく似た顔の人がたくさんありました。

今回の梅の花の時期もいいですが、なんととってもイチョウの黄葉の時期が素晴らしいところです。前庭をイチョウの黄葉が黄色に染め、五百羅漢堂が浮かび上がるように目に飛び込んでくるのです。

四国で知り合いに会えるかも？



地藏寺大師堂前でお参り

羅漢の次は、地藏

羅漢さんをお参りして石段を下ると、五番札所地藏寺です。地藏寺の奥の院が五百羅漢堂、地藏の奥の院が羅漢とは面白いと思いつつながら石段を下りました。

石段の途中から境内の伽藍が望めます。庫裏や客殿をはじめ、建物が次々と新築され、本堂と大師堂だけが整備計画からはずされたような感じがします。

ちょうど団体バス遍路といっ

しょになり、少し待つてあげることにしました。

付き添いのような若いお坊さんに聞くと、善通寺から来たとのことでした。先達は別にいるようで、大師堂で真言を唱え始められて、若いお坊さん三～四人があわてて大師堂の方に行きました。

本堂前が空いたので、心経を読んで、振り返ると団体バス遍路はすでにバスに乗るところでした。



今回のあるき遍路の三人〇〇。



地藏寺の長い参道を歩いて、へんろ道に向かう。

長い参道を抜けて

地藏寺から山門を出ると、大きな石が敷き詰められた参道が続きます。参道の両側には低い土塁が築かれ、土塁の植えには桜の木が植えられて、桜並木を作っています。寺号石を過ぎても、なおまっすぐな道は、地藏寺の参道です。かつてはこの参道の両側にへんろ宿があったのだらうと思わせるような建物がまだ残っています。

へんろ計画の時には、この参道に面した「森本屋」さんというへんろ宿に泊ろうと思いましたが、「ばあちゃん一人でやってるから、20人もの団体は無理だよ。」と言われてしまいました。

長い参道から右に曲がると、集落の中のへんろ道です。鈴の音が、両側の塀や壁に反響して、一段と大きく聞こえる中を、六番札所まで約5.3kmです。



六番札所安楽寺山門

温泉があればなあ・・・

いくつかの集落を抜けて旧道を歩いていくと、1時間少々で六番札所安楽寺に着きました。

山号を温泉山といい、かつてこのお寺があった場所では、その名の通り温泉が湧き出していたといわれています。宿坊もあるこのお寺で温泉が出ていたら、安楽の寺名に誘われて、迷わず泊るところですが、残念ながら移転した現在の場所では温泉は出ていないようです。そ

れでも、大きな建物の宿坊があり、大きな団体も十分宿泊できそうでした。大師堂の隣りにある茅葺きの建物も、宿坊になっているようで、なかなか風情が感じられました。

でも、朝、一番の門前から歩き始めると、時間的にも、もう少し先に進めそうなので、今晚の宿は七番札所の宿坊を予約してあります。



七番札所十楽寺。後方左が近代的宿坊。

近代的宿坊

安楽寺から七番札所十楽寺まではわずかな距離です。

今日の遍路中、一番竜宮城っぽい門は、ここの鐘楼門かもしれません。鐘楼門をくぐり、石段を登り、山門をくぐると砂利が敷き詰められた境内となります。右手に、近代的な白亜の庫裏・納経所・宿坊が建っています。

まずは本堂と大師堂にて、2日目最後のお参りです。無事歩き通せた安堵感が漂いました。

宿坊に行くと、履物はそのままでお部屋までどうぞとのこと。なんとここはビジネスホテルばりのシステムになっていました。部屋のキーはカードキー、予約するときに、「部屋の基本は、ツインルー

ムです。」というぐらいで、部屋はツインルームがほとんどのようでした。宿坊とツインルームという組み合わせに、一瞬耳を疑ったほどです。

宿坊は雑魚寝が基本と思っていました。初めて一緒に旅をする人との出会い、同室の人との話の中での癒しもあるでしょう。四国へんろに出かけようと思ったきっかけを聞くことも、自らの気持ちを知らぬいい機会になります。そんな深い話をできるようになるまでの、酌み交わす一献もまたいいものです。

そこで、宿坊の思惑を曲げていただいで、できるだけ雑魚寝できる部屋を予約しておきました。

宿坊はカードキー。
七番札所十楽寺。

朝日を浴びて3日目の出発

朝のお勤めをして、朝食を済ませ、3日目の始まりです。2日目とは違い、朝からいい天気です。すがすがしい朝の空気を吸って、いざ第1回目最後の日がスタートです。

八番札所熊谷寺への道は、新しい道路ができたおかげで、へんろ道から車の道に迷い込みやすくなってしまいました。新しい車の道は、自動車にとっては快適ですが、坂道がだらだら続き、あるき遍路には少々きつい道です。

二十人もの歩きですから、前後

差が大きくなり、先に行って後続を待っているとなかなかやってきません。案の定、後続のグループが新しい車の道のほうに行ってしまったようでした。

どちらにせよ、熊谷寺には着くのですが、やはりへんろ道から行って、熊谷寺のシンボルである豪壮な山門をくぐって札所に着くのがあるき遍路の醍醐味といえるでしょう。車社会のせいで、山門と本堂とが新しい道で分断され、車へんろは山門をくぐることはないのでから・・・。



3日目の始まりです。



熊谷寺の山門をくぐる。

はるか山はいずこへ

駐車場のベンチに荷物を置いて、本堂へとお参りに行きました。参道脇の多宝塔の前を行くと、スピーカーからご詠歌が聞こえます。もう少し、厳かなボリュームにできないものか、少し残念でした。本堂は、立派な瓦屋根が印象的です。本堂の左の石段を登ると大師堂なのですが、工事中で駐車場下の仮のお堂でのお参りでした。

境内は少し高台になっており、以前はお参りを終えて下り始めると、吉野川をはさんだ対岸の山々

がよく見えました。いずれあの山へも足を踏み入れていくのだと、はるか先の山へ思いをはせ、そして心の準備ができました。ところが、高速道路ができたせいで、仁王門の先には高架が見えるだけになってしまいました。

九番札所法輪寺までは、田畑の間を通るゆるい下りです。しばらく行くと、田んぼの中にバスが止まっている駐車場が見え、あそこが次の札所法輪寺であることがすぐわかりました。

自動車道に惑わされ、さえぎられて。



四国山地を望む。あの山の麓を吉野川が流れています。奥のほうには雪山も見えます。



なかなか会えません。

九番札所法輪寺は、田んぼの中にあるこじんまりした札所です。でも、小さいながらもきれいに整備され、納経所やトイレなどはセンス良く作られてあります。また、納経所前の休憩所は落ち着いて休むことができます。

この本尊様は四国札所中唯一、涅槃像を祀ってあるそうですが、秘仏であり、ご開帳のときしか見ることはできません。縁があ

れば、一度お目にかかりたいと思っています。

門前に小さな茶店があります。いつ行ってもおいしそうな饅頭や蒸かしたサツマイモなどがおいてありますが、店の人に出会ったことはありません。でも、饅頭を買いたいと思っていると、どこから店番のおばちゃんが現われてくる不思議な店です。店の人も秘仏なのかもしれません。

初お接待

法輪寺からはのどかな田園風景の中のへんろ道を行きます。道端に古い道標やお地蔵さん、小さな川を渡ったところに小さなお堂が建っていたり、へんろ道も昔ながらののどかな空気が漂っています。

程なく少し大きな道に突き当たります。そのまま行こうかと思いましたが、突き当りの店先で小休止することにしました。思わず通り過ぎてしまいそうなところですが、店先にイスとテーブルがだしてあり、「お遍路さん、休んでいてください。」と張り紙がしてありました。ごちそうになることにしました。初接待です。20人もの団体で本当に恐縮でしたが、お湯

のお変わりまでお願いして、なんと図々しいことか……。店のおばさんが、「昨日あたりから暖かくなったから、お遍路さんも増えたね。昨日まではポット一つで足りたのに。」と言って快くお湯の入ったポットを出してくれました。いえいえ、たまたま私たちの団体あるき遍路が来たからですよとは言えず、おいしくいただきました。

店の脇に、今日の昼食予定の店の看板があり、ついでに予約の電話をしておくことにしました。これが後で功を奏することになるとは思いもしませんでした。お接待をいただいたおかげだと、後で更に感謝の気持ちが湧いてくるのでした。

初お接待は感謝も2倍となる。

四国の子どもに励まされて

十番札所切幡寺は今回お参りの札所の中で、一番高いところにあります。といっても、参道入り口から本堂までの標高差は100m程度ですから、それほどではありません。

参道の両側にはかつて茶店などが並んでいたのですが、今では数えるほどです。その中の一軒の縁側に荷物を置かせてもらい、お参りをしてくることにしました。高速道路をくぐって、急な坂道を行くと、ようやく仁王門です。ここを過ぎると、参道は石段

へと変わります。地元の小学生が、その石段を上り下りしてトレーニングをしていました。その苦しい上り下りの途中でも、お遍路さんにはあいさつの言葉を忘れません。さすが四国の子どもたちだと感心させられました。

子どもたちのように駆け足で登ることはできず、一段一段ゆっくりと登って、ようやく境内にたどり着きました。着いた途端、ゴーンと鐘樓の鐘が鳴り響きました。先に着いたお遍路さんが、お賽銭をあげて、鐘をついた所でした。



切幡寺の新築の仁王門。



切幡寺本堂で般若心経を詠む。

パッチワークのお寺

その昔、旅の僧がこの山の麓を歩いていると、機織りの音が聞こえたそうです。旅で痛んだ衣を繕う布を乞うたところ、機織りの娘が織りかけの布を施してくれたそうです。そんな因縁で、このお寺は切幡寺となったと伝えられています。

布切れを縫いをあせて衣を作るのは、お釈迦さまの時代からのことで、今でもお坊さんが身につける袈裟は、小さな布を縫い合わせ

て作られています。今で言う、パッチワークの元祖です。そこで、修行僧の衣のことを「糞掃衣」ともいいます。人が不要になったような汚い切れを縫い合わせて作ったという意味です。

今では、小さな布を縫い合わせて作ることは、手間がかかり費用もかかるものになっていますが、もともとはそんな意味があるんだということを、お寺の名前が教えてくれます。

袈裟はパッチワークの元祖。



十番札所切幡寺の石段。



切幡寺参道の茶店にて

茶店の縁側に腰掛けて

荷物を置かせてもらった茶店に戻ると、コーヒーのお接待をいただきました。店の向かいにある古い建物は、昔の茶店の跡だったと思います。今では雨戸が閉められ、使っている形跡はありません。雨戸の前には縁側があり、昔のお遍路さんもここで休んだだろうと思いながら腰掛けさせてもらい、コーヒーを飲みました。昔だったら、番茶にお団子だったの

かもしれません。

ここから、今回最後の札所藤井寺まで約十キロ。今回最長の札所間の距離です。山を下り、途中で昼ごはんを食べ、吉野川の沈下橋、中ノ島、再び沈下橋を渡り、JR徳島線を越えて・・・と、これからのへんろ道を想像しながら小休止を終え、さあ出発することにしましょうか。



予約しておいたうどん

予約奏功

昼ごはんに予定していた店は、へんろ道の途中から大きな看板が見え、同時に急におなかのすきはじめました。

店に着くと、駐車場は満杯、店の中も空いている席はありません。予約していたのにも思いついて待っていると、別棟に案内されて座敷に通されました。どうやら、私たちの到着が予定より早かったようです。

座敷に坐るとうどんが出され、すぐ食べることができました。これで予約していなかったら、食事にありつけるが何時になったかわかりません。お接待をいただいた店先で、予約の電話をしてよかったですと胸をなでおろしました。

おそらく鳴門産であろうわかめがたっぷり入ったうどんは、空腹にやさしく、おいしくいただきました。



吉野川に架かる沈下橋。

橋上で一休み

うどん屋さんから歩くこと一キロちょっとで、吉野川の土手に着きます。四国の大河吉野川を沈下橋という、大水が出たときには水中に沈んでしまう橋を二つ渡ります。

沈下橋は、水没することで橋の流出を防ぐために掛けられた橋で、上流から流れてくるものが引っかからないように欄干もガードレール也没有。車が来たら端に体を寄せなければならず、

高いところが苦手な人には足がすくんでしまうような橋です。

途中に車の退避場所があり、ここで吉野川を渡る風を浴びながら小休止をしました。川岸に出る手前の小さな町の和菓子屋さんで、雨海さんがうまそうな饅頭を仕入れてくれていました。川風を浴びながら饅頭を頬張るなんて、あるき遍路の醍醐味でしょう。さすが雨海さんは、歩き遍路の経験者だけあるなあと感じました。

吉野の川風に吹かれて。



難所目前

今回最後の札所、十一番札所藤井寺は、四国札所中わずか二ヶ寺しかない臨済宗妙心寺派のお寺の一つです。あるき遍路にとっては、十二番焼山寺への登り口といった印象の方がはるかに強いといってもいいでしょう。

市街地の一番奥まったところ、

すぐ裏に山を背負った境内は、これから難所に分け入っていく雰囲気十分に醸し出しています。

秋のあるき遍路でまた来るぞ。そして、四国遍路最初の難所に挑むぞという気持ちを胸に刻んで、藤井寺のお参りを終えることになりました。



藤井寺の仁王門



藤井寺本堂の雲竜図

次回は難所焼山寺。

次回も元気に歩きましょう。

桜田さんが地藏寺で撮った私の足の写真。

最後にこんな写真で申し訳ありません。あしからず・・・。



無事第1回を終えることができました。
みなさん、いかがだったでしょうか？

臨済宗妙心寺派 圓福寺
263-0025
千葉市稲毛区穴川町375

電話 043(251)9181
FAX 043(251)9549
Email: oshou@chiba-enpukuji.com

ホームページもご覧下さい。
www.chiba-enpukuji.com

編集後記



写真集の出来上がりが大変遅くなりました。申し訳ありません。

あわただしく編集いたしましたし、時間も大分たっておりますので、間違いや思い違いなどもあるかと思えます。そこら辺は、各自で訂正しながらご覧いただければ幸いです。

毎回このような写真集をまとめていく予定ですので、写真や記事・感想などお寄せいただけたらとてもうれしいです。

なお、この写真集は圓福寺ホームページにも掲載させていただくことを、あらかじめご承知おきください。

第二回は、11月14日からの二泊三日を予定しております。四国札所を歩き始めて最初の難所「焼山寺」が控えております。藤井寺から焼山寺までは、アップダウンの山道で、およそ8時間ぐらいの所要時間かと思えます。多少足慣らしをしてからのご参加が望ましいかと存じます。

つたない写真集を最後までご覧いただき、ありがとうございます。



2巡目第1回
平成20年
2月29日～3月2日